

第11回 長野市中心市街地活性化基本計画評価専門委員会 議事録

日時 平成23年6月27日(月)

午前9時から

場所 第二庁舎 6階 会議室

【出席者】

	氏名
委員 (6名)	市川浩一郎委員、金澤玲子委員、越原照夫委員、渡辺晃司委員、樋口敦子委員、石川利江委員、(欠席:高木直樹委員)
事務局 (5名)	原田都市整備部長、轟まちづくり推進課長、小田切中心市街地活性化対策室長、小林係長、長谷川主査

1. 開会
2. 都市整備部長あいさつ
3. 委員長あいさつ
4. 議事

(1) 平成22年度フォローアップ及び事業実績報告について

<資料1> (説明者:事務局)

(委員)

- ・ もんぜんばら座の人数が増えているが、トマト食品館の利用人数は増えているか。
- ・ H20年をピークに少しずつ落ちているが、それほど大きく下回っているわけではない。
- ・ 「住みたくなるまち」の評価、目標達成の見通しの評価だが、門前の辺に、数は少ないが、若い人が古い住居に住み始めたりしており、全国的にまちづくりの関係者が、結構注目されていることも考えるとワンランク上の評価でもいいのではないか。

(事務局)

- ・ 確かに少し、好転していると感じている。マンションの方も、今、4つほど復活してきている。権堂に新たに計画されているものもあるので、今年度末...23年度末評価では、上方修正したいと思う。

(2) 数値目標の最新数値について

<資料2> (説明者:事務局)

(委員)

- ・ 子供の0歳から14歳というのは、微妙に伸びているが、評価のところでは、「子供は減っている」となっている。子供が小さいときは、中心市街地に住んでいて、小学校に行くくらいになると、いなくなってしまうのか。
- ・ 子どもが、自分の部屋を持ちたがる頃になると、転居してしまうのではないか。
- ・ マンションは販売価格の高騰的な問題で、ユニットが小さい。3LDK100平米いかないくらい。そうすると、子供さんが小さいときはいいが、個別に個室を持ちたいという年齢になってくると、そこに住みきれなくなる。高校生くらいになってくると、通学エリアが広がるので、郊外のお年寄り世帯とチェンジして住む様な傾向がある。

- ・ お年よりも着実に増えている。中心市街地はお年寄りが多いが、郊外も同じ構造に徐々に近づいてきている感じがする。いずれにしろ、買い物難民が、どんどん増えてきている。
- ・ 長野市全体の子供は微増しているのか。

(事務局)

- ・ 長野市全体では、若干減っている。パーセンテージは同じでも、総人口が減っているので、当然、子供も減っている。

(委員)

- ・ 年代別の数値は、居住をどうしていくかっていう考える時には、非常に有効な数字だが、生産年齢や結婚年齢が昔とずれてきている中、年齢構成のくくりを工夫した方がいい。
- ・ 例えば、「歩きたくなるまち」の数字に、年齢構成との関連、問題というのが出てくるのでは。
- ・ 歩く為のポイントというか、文化的な装置とか、何か、そういうポイントづくりが、これから大事だと思う。
- ・ 道路に何か、ベンチみたいな置き様な...、そうすると、多少変わるかもしれない。

(事務局)

- ・ 次期、ご開帳に向けて歩行者優先道路化事業の工事が、セントラルスクエアの前から始まっているが、そういったファザードや、木の植え方、ベンチの置き方など研究しながらやっている。

(委員)

- ・ 重要な施設のところは綺麗に変わっていくが、その一部の商店がちょっと変わるかわからないが問題。ふれあい通り委員会などで講師の方が、非常にいいお話をしている。「目の前の玄関口を変えてください！」と先生は、一生懸命言っている。椅子一個置いただけだが、未だに置かないし、変わらない。
- ・ 道路が綺麗になって人がいないみたいなのが一番よくない。
- ・ 店の皆さん良い方の例で見ているし、道路と家は別と考えているのでは。例えば道路に椅子を置けば、怒られちゃうところがある。撤去して欲しいって言われたこともある。自分がバックしてでも置くてことを考えていないと思う。
- ・ 公共の道路の所と自分の土地との境、空間作りもそうだが、街が協力しないと無理なことなので、まずは暖簾を外して椅子を置くなど、出来るところから始めて欲しい。

(3) 次期計画について

<資料3> (説明者:事務局)

(委員)

- ・ 次期計画策定スケジュールの、国の方針との協定があって、まだ分からないことだとは思いますが、この次期策定についての審議会的な委員会は持たず、どういう形で進められる予定なのか。
- ・ 第4次総合基本計画後期計画の中で、中心市街地はどう位置づけられているかというところは、非常に関連していかなければいけない。税収の問題とか、長期に見据えながら、いろんな考えていかなければいけない。

- ・ 税収処置として郊外が「税金負担をする」ということであれば、中心市街地はどうでもいいが、バランスよくその辺を捉えながら、中心市街地の税負担が大きいなか、中心市街地の活性化も力を入れるべきところだと思うので、総合計画がどうなるかによってかなり影響があると思う。

(事務局)

- ・ 前回の様な策定委員会も諮問機関の形をとるのではなく、評価専門委員会の評価いただいている中で、検証と、中心市街地活性化協議会との2つの委員会を活用するかたちで進めたい。
- ・ 総合計画の策定に向けては、「コンパクトシティー」は継承していく。やはり、事業の選択集中というのが、大きくは謳われている。中心市街地の活性化の中で、長野だけでなく、松代・篠ノ井も捉える方向で進められている。

(委員)

- ・ アンケートの件、例えば、公共交通機関、バスや電車で、中心市街地に来ている人、要するに遠くから中心市街地に来ている可能性もある人に絞って、「バスで行くが、こういう点が気に入らない」とか、「こういう点を、中心市街地にもとめているんだ」とか、そういうのを知るためのアンケートはできないか。
- ・ 別途で何か...以前、活性化協議会で行った街頭アンケートでないと無理ではないか。
- ・ 中心市街地に来ている人が、何を求め、商店はそこでちゃんとマッチングしているのか考えなくてはいけない。間接的に長野に来ている人達は、「こういうのを求めているよ!」と...。だから、イベントをやっても、売りに結びつかない。そうじゃなくて、イベントで人を集めているのだから、そのお客さんをみて、「お宅で売っているものは、ずれてきているのではないか」ってことを、本当は分かってもらわないといけない。
- ・ 現在、中心市街地に来る人は、買い物でなんて殆ど来ない。善光寺に行く人やイベントで来るわけだから、その辺を、狙っていないといけない。昔のままで、「求めているものは郊外にいくらでもあるから」という、返事になってしまう。
- ・ 例えば松代とか、信州新町とか、そういうところは「あなたは、長野へ行ったことありますか?」とか「じゃあ、なんで行かないの?」とか、質問を変えてみるのも一つの方法ではないか。
- ・ 一つ案として、NTT や JR、JA とか有名企業で結構、年齢層だとか、エリアがいろんなところから集まって来られる様な方をお願いしてみるというのはどうか。
- ・ 最後のところだと人はなかなか意見を書いてくれないが、例えば、この第一の目標に関する4つの質問の後で、一行入れて長野市が見習ったほうが良いとイメージしたところは何処ですか?という様なフリーワードを、それぞれの設問ごとに入れて欲しい。

(事務局)

- ・ 第一から第五地区の市民会議が7月15日にあるので、簡易版での中心市街地のことについての意見アンケートを実施する。
- ・ 調査が非常にタイトになる。また、自ら、集計等もやらなくてはならないため、一旦は、幅広い意見聴取する方向でやらせていただきたい。
- ・ 街頭アンケート等については、検討する。

(委員長)

- ・ いろいろご意見いただいたが、まず、アンケートをやって、結果をみんなで精査して、そこから分析した方がいい。必要があれば、また補足的に。
- ・ 次期計画を立てるといことで、継続する方向でいくので、宜しくお願いします。

(4)その他 他都市のフォローアップについて

<資料4> (説明者:事務局)

(委員)

- ・ 居住人口のところ、が多い。皆さん苦戦していると思う。山梨県甲府市の居住人口がとか出ている。何で成功したか?ということを教えてもらえればと思う。
- ・ 住民基本台帳調査以外の独自調査でプラス 250 人。やはり「企業等の単身者、学生」が住民基本台帳への登録を済ませていないので、市で独自に調査した 252 人の学生がいるとの記載がある。以前も委員会で話題になった。こういったことも加味していくべきではないか。
- ・ 長野駅周辺第二土地区画整理事業について、どのくらい効果があったのか、昔と比較してみたい。
- ・ 公共道路も増えたが、商店は少なく、東口の街並みがブツブツ切れている印象。中心市街地に掛かっているところは、家が無くなり、新しい商店が建たず、駐車場になっている。
- ・ 「道が良くなった」くらいでいいのではないか。後は住宅街を整備することが大事ではないか。

(事務局)

- ・ 各市のフォローアップを確認し、照会等を行い、実情等について後日お知らせする。

5. 事務連絡

6. 閉会